


様式第5号

出張調査報告書

平成29年2月9日

松伏町議会議長 佐藤永子様

会派名 町民クラブ

代表者氏名 堀越利雄 

下記のとおり先進地視察をしたので届け出ます。

記

1 期 日	平成29年1月22日から平成29年1月23日
2 視 察 地	(1) 鹿児島県南さつま市 (2) 垂水市道の歌、将島道の歌「火の島山火の鐘」南さつま市「さつまの森」 (3)
3 視 察 目 的	(1) 南さつま市 自治会パートナー制度実施計画 (2) 阿久根市 元気づくり推進会議 (3) 地元の特色ある道の歌、現地見学
4 視 察 者 氏 名	堀越 利雄 鈴木 肇 長谷川 真也
5 視 察 結 果	行程、視察結果は別紙のとおり

平成28年度町民クラブ視察日程表

平成29年1月22日

松伏町 7時15分
↓
羽田空港 10時15分発
↓
鹿児島空港 12時15分着
↓
垂水市 道の駅「たるみず」 15時20分
↓
桜島 道の駅「桜島火の島めぐみ館」 16時00分

平成29年1月23日

鹿児島市内 8時00分
↓ (積雪のため国道1時間以上大渋滞…予定より1時間遅延)
南さつま市役所 10時50分 自治会パートナー制度実施計画と実績
元気づくり井戸端会議実績
12時30分終了
↓
南さつま市 道の駅「きんぼう木花館」 現地見学と昼食 13時30分
↓
南さつま市公共施設現地見学 14時40分
(南さつま市役所議会事務局担当者の案内により、万世特攻祈念館他)
↓
鹿児島空港 18時40分発
↓
羽田空港 20時10分着

南さつま市行政視察報告

視察日時・ 平成29年1月22日、23日
町民クラブ会派・堀越利雄、鈴木勝、長谷川真也

南さつま市は鹿児島県薩摩半島の南西部に位置し、平成17年に1市4町が合併した総面積283km²の広大な面積に、人口3万6千人が住んでいる。

市長2期目となる本坊輝雄市長は、市長就任後、市長マニフェスト(7つの柱による27項目)に基づく様々な取り組みを行ってきた。

今回はその中から「自治会パートナー制度実施計画と実績」と「元気づくり井戸端会議」について行政視察した。

また、南さつま市の道の駅「きんぼう木花館」、桜島にある道の駅「桜島火の島めぐみ館」、垂水市の道の駅「たるみず」、それぞれに特徴ある3箇所の現地施設を視察した。

自治会パートナー制度実施計画

自治会パートナー制度は、自治会に自治会パートナーを置き、自治会と行政の連絡を密にし、お互いの連携を図り、自主的な地域づくりを目的としている。現在、南さつま市には247の自治会があり、1単位の自治会で大きいのは300戸、小さいのは4戸と規模数格差があり、市内全自治会が配置対象となっている。

南さつま市自治会パートナー制度実施規定によれば、パートナーは行政嘱託員制度により任期は2年(再任できる)。自治会パートナー制度に関する庶務と、業務に係る課題等の情報把握と集約は総務課が担当している。

平成27年度自治会パートナー面談・対応集計表によれば、自治会数248、パートナー数348人、延べ面接回数508件、相談数443件。そして対応済パートナー301件、対応済所管課36件、今後対応パートナー35件、所管課71件。マニフェストは確実に実行と実績を上げていた。

松伏町の世帯数と自治会加入数の割合は約50%前後だが、南さつま市は中心市街地の一部を除き、95%以上の自治会加入率という状況の相違はあるが、自治会パートナー制度が市民と行政をつなぎ、概ね2か月に1回以上の面接を行っているというきめ細かい制度が住民の満足度を高めている。

元気づくり井戸端会議

南さつま市では自助・共助・公助の精神のもと、地域の特性を活かし、共生・協働による地域活性化や課題の共有・解消を図るため、市内元気づくり委員会や自治会を対象とした市長（行政）との意見交歓会が平成26年度から本格実施された。

開催形式は原則自由で、参加者は組織役員や地域住民等で、会議時間は1～2時間程。問題は市長との日程調整で、実施の2か月前に日程調整、1か月前に会場やテーマ選定、1週間前に参加者数の概算把握と準備を企画政策課と政策調整係が行っている。

井戸端会議の平成26年度開催実績は各地域で合計11回開催。1開催ごとに地元参加者が30人～40名を超え、年416名、開催テーマ数は年56。翌27年度もほぼ同数で推移している。テーマの概要を見ると、地域に応じた多様な問題が取り上げられている。

行政のトップである市長が掲げる地域元気づくり事業では、地域の問題解決だけでなく、新しいコミュニティを構築して住民自治の拡大を図り、元気で活力のある街づくりを行う姿勢が強く感じられた。また、南さつま市の支援として、元気づくりプランに応じ、(1)計画策定分、(2)事業実施分(①ソフト事業)(3)事業実施分(②企画提案型ソフト事業)(4)事業実施分(ハード事業)とそれぞれに応じた補助金制度がある。

今回の視察テーマにはないが、南さつま市の企画政策課担当者から、「ふるさと納税」で、納税額が約15億円になることを知らされた。全22ページカラー版の豪華な返礼品カタログには鹿児島産黒毛和牛ステーキ肉や特選焼酎、マンゴーなどの果物他豊富な返礼品があり、商工水産課商工水産振興係が力を入れている。

道の駅視察 垂水市内道の駅・桜島道の駅・南さつま市道の駅

関東近郊の道の駅と比較すると、敷地面積、建築面積など小規模だが、地域の特色を生かした道の駅として運営されていた。

垂水市 道の駅「たるみず」

駐車場スペースが少ないが、温泉の多い鹿児島県の特徴をアピールし、敷地内に温泉施設がある。

桜島 道の駅「火の島めぐみ館」

桜島のなかにあり、物産品展示コーナーが充実している。訪れた時、冬場に

しかない世界最大の桜島大根と桜島小みかんがあり、桜島大根は全国配送している。15年前に鹿児島市が建築し、管理は地元の農家組合で運営管理している。

南さつま市 道の駅「きんぼう木花館」

周囲が田園地帯の場所にあり、きんぼうのネーミングの通り、日本一の超早場米「金峰こしひかり」が有名。店舗内の売店には金峰町の物産が販売されている。会派視察3人は昼食を道の駅レストランで食べたが、レストランの一角にそば打ち体験ができる施設がある。素朴だが、また訪ねたくなる雰囲気のある道の駅で、遠方からのドライブ休憩客だけでなく、近隣の人々の利用頻度も多いように感じた。